

1月21日(木曜日)

ドル/円

米中の発表ものに注目

20日(水)の主な推移

NYダウ平均

10603.15ドル
(-122.28ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

3.6571%
(-0.0445%)

NY原油先物

77.62ドル
(-1.40ドル)

チャート: 30分足 20日(水)朝7時 ~ 21日(木)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

①

中国の金融当局が主要金融機関に対し、新規の融資を停止するように通知したことを受け、中国株式市場が下落。これを受けてリスクへの警戒感が高まり、クロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)を中心に円が買い戻される展開となった。また、三井住友フィナンシャルグループが公募増資を行うことを決定し、これに絡んだ海外からの円買い・ドル売りがあるとの観測も、円買いムードに拍車を掛けた。

②

バンク・オブ・アメリカの決算が予想を超える赤字となったことや、米住宅着工件数が55万7000件と市場予想(57万2000件)を下回ったことで、発表後にドル売り・円買いが小幅に進んだ。だが、その後に米系投機筋とみられるドル買い・円売りなどによってドルが急反発。23時45分ごろに91.45円の高値をつけた。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・日本の政局の混迷
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本政府による市場介入への警戒感
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 90.10-91.70円

本日11時には中国の経済指標が発表される。2009年第4四半期の実質国内総生産を始め、12月の生産者及び消費者物価指数、小売売上高、鉱工業生産など主要な経済指標が同時に発表されるため、注目度はかなり高い。しかも、ほとんどの指標が前回発表時よりも強い数値が予想されている。ただ、足元で急速に金融引き締めの色が深まっている中国であるだけに、仮に数値が弱ければ「引き締めが経済の腰を完全に折る不安」から円が買い戻されよう。ただ、例え数値が強く、一旦は円売りで反応しても、「さらなる引き締め観測」から徐々にクロス円を中心に円が買い戻される、という展開になる可能性もある。

また、夜には米国の企業決算や経済指標の発表もある。昨日はこれらの結果に対するドル/円の動きは限定的なものに留まったが、悪い内容のものがいよいよ目立てばドル売り材料に、良い結果が並べばドル買い材料になり得るため、注意は払っておきたい。

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/21(木)	11:00	○	(中) 第4四半期実質国内総生産 [前年比]	8.9%	10.5%
	22:00	○	(米)ゴールドマン・サックス第4四半期決算	—	—
	22:30	○	(米) 1/17までの週の新規失業保険申請件数	44.4万件	44.0万件
	24:00	○	(米) 1月フィラデルフィア連銀景況指数	20.4	18.0
	—	○	(米)グーグル第4四半期決算	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com